

日本遺伝学会第 95 回熊本大会を終えて

大会委員長 荒木 喜美

第 95 回熊本大会は、令和 5 年 9 月 6～8 日の日程で、くまもと県民交流館パレアにおいて開催されました。新型コロナが第 5 類になり、基本現地開催としましたが、353 名もの参加者をお迎えでき、活気のある学会だったと思います。内訳は一般会員 155 名（内ポストドク 11 名）、シニア会員 5 名、学生会員 131 名、教育会員 2 名、一般非会員 15 名、招待者 45 名でした。一般会員参加者 155 名のうち、56 名もの人が当日参加で割高な会費を支払っていただきました。また、参加費はどちらも無料なのですが、学生会員については事前登録が 62 名、当日参加が 69 名でした。その他も含めて当日参加が 140 人もいて、予想外の多さに受付が大変なこととなりました。演題登録と参加登録を確実にリンクさせる必要を痛感しました。

利便性を考えて、会場を大学ではなく繁華街の中にあるくまもと県民交流館パレアとし、また、大会の準備段階から当日の運営まで学会イベントに精通した地元業者のコンベンションサポート九州さんに業務を委託しました。そうすると会場費や委託費がかかりますが、それを補うために、企業展示や広告をいろんなつてを頼ってお願いし、結果として、企業展示 15 社、広告 15 社、寄付 1 社を募ることができ、お陰様で参加費を超える額を集めることができました。

会期中は大きなトラブルもなく順調に進められました。ワークショップはさまざまな企画があり、特に、遺伝学会若手の会主催で参加者の活発な交流を企画した～いきなり遺伝学～や、高校で生物選択者が減少している問題に焦点を当てた討論会など、かなり盛り上がったと思います。シンポジウムでは、熊本大学理学部と天草酒造が共同開発した世界初の分裂酵母を用いた芋焼酎の話題を含むお酒造りに関する講演を行いました。それとタイアップする形で、その芋焼酎や分裂酵母を用いたビールを展示会場で販売していただきました。

ナイトゼミナール（懇親会）は、飲み屋さんの多い上乃裏にある、白壁の土蔵を居酒屋にしたビアレストラン 壺之倉庫で開催しました。場所の関係上、基本的に事前登録のみで少数のみ当日受付可能としていたのですが、当日参加の希望者が多く 34 名も当日参加となり、合計 141 名での懇親会となり、やや手狭になってしまいました。YBP 賞の授与式、分裂酵母を用いた芋焼酎の試飲、芋焼酎をかけたじゃんけん大会など、大いに盛り上がったと思っています。

週末の公開市民講座は、熊本大学本荘キャンパスにおいて 2 部構成で開催しました。第 1 部は『宇宙環境と遺伝』というテーマで宇宙マウスを利用した研究を中心とした講演会、そして第 2 部では、大学内で研究に用いられている動物（マウス、ハダカデバネズミ）及び細胞（ES 細胞、精子、卵子、受精卵）を観察し、DNA を実際に肉眼で見る実験を行い、生命科学の最新機器を見学する「体験講座」を開催しました。また、この公開市民講座についてはオンサイト・プラス・オンライン・ハ

イブリッド形式で開催したのですが、第2部の時間帯にはオンラインの裏メニューを準備しました。
さらに現在、オンラインの Zoom 録画を 2023 年 12 月末までの期間限定で、ID とパスワードで管理
したストリーミング配信を行っています。

大会全体としては、久しぶりの、全く制限のない対面開催を楽しんでいただけたものと思います。
末筆になりますが、大会実行委員、プログラム委員、シンポジウム・ワークショップ・男女共同参画・
最終講義等の各種企画者、発表者、そして参加者を含め、開催を盛り上げていただいたすべての
皆様に、感謝を申し上げます。